国際資源学部

国際資源学部は、地球規模の資源問題解決に向けて、資源生成メカニズムの解明から資源の探査、開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、網羅的に資源を学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドとして資源学の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

当学部で実施する英語による専門科目の講義や学生全員が参加する約4週間の海外実習（海外資源フィールドワーク）などの実践的な教育によって、学生の皆さんは高い国際性と専門性を身につけることができます。2014年の学部創設から現在まで多くの卒業生が国際的な資源ビジネスに取り組む企業に就職しています。資源のスペシャリストになり、世界の持続可能な開発への貢献を目指す皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

■学部の構成（1学科）

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース（文系）

資源を取り巻く国際情勢や政策・法制度を理解し、関連する政治学や経済学、資源国とのビジネスや国際協力、その背景となる資源地域の文化や歴史、宗教について学びます。

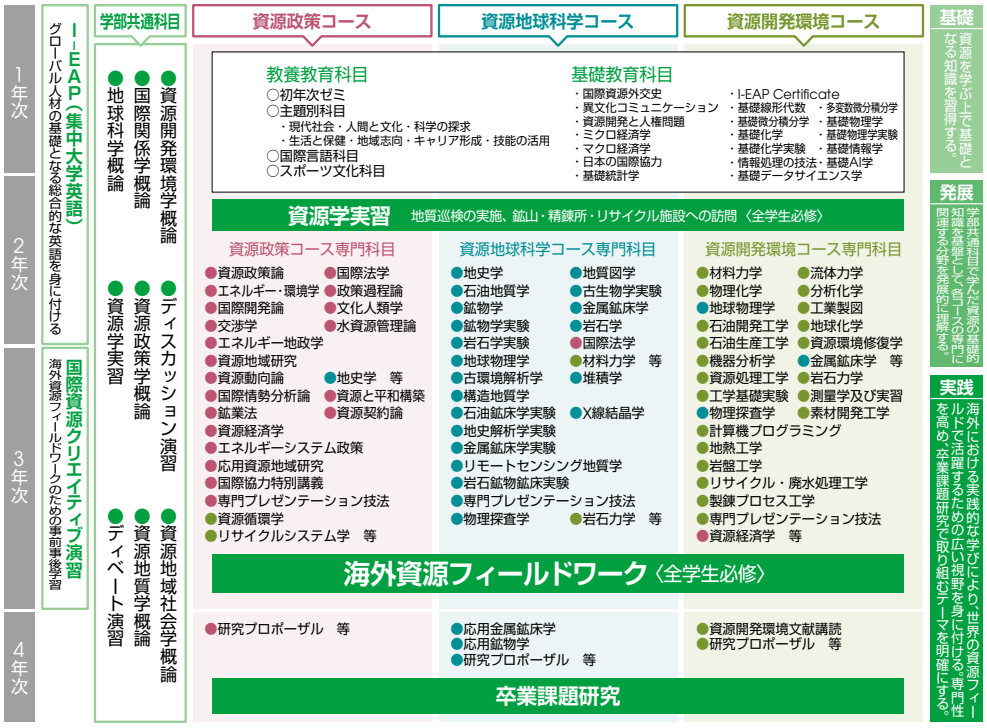
●資源地球科学コース（理系）

世界の資源の成因や特徴を理解し、資源探査や評価に貢献するために、資源を生み出す地球規模の自然現象、地球史、地球を構成する物質やその分布と探査について学びます。

●資源開発環境コース（理系）

限りある地球資源を持続的かつ有効に活用するため、地球環境に調和した資源開発・生産技術、リサイクル・製錬技術、環境保全などに関わる専門分野を学びます。

カリキュラムの特色



専門科目は全て英語で授業

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」と呼ぶ特別カリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、開発に必要な地球科学、資源工学といった理系の知識はもちろんのこと、その国の政治・経済状況、文化や制度を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。国際資源学部では、専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を越えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上では、文系の知識と技術系の知識の両方が必要になり、文理融合の視点は欠かせません。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全ての学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部では、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からも協力を得て、学生全員が海外で4週間程度の資源学に関連するフィールドワークを実施できるネットワークを用意しています。これまでの実績としては、ヨーロッパや北米、南米、東南アジア、中央アジア、中東、アフリカなど、まさに世界中を対象としたプログラムを実行してきました。実際に操業している鉱山での研修や、海外の大学でのレクチャーの受講、研究施設や企業の資源ビジネスの現場を訪問することで、地球と資源、資源と人間との関係について実感をもって学ぶことができます。

I-EAP（集中大学英語）

「I-EAP」とは、Intensive-English for Academic Purposesの略。英語力を「読む（reading）」「聞く（listening）」「書く（writing）」「話す（speaking）」「プレゼンテーション（presentation）」の5つの技能に区分し、8週間一区切りで個別技能の教育を行う集中講座。授業は全て英語で行い、技能ごとの目的に合った教材を担当教員が選定し、少人数編成のクラスで基礎英語力を徹底的に鍛えます。

ディスカッション演習
ディベート演習
専門プレゼンテーション技法

実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けます。

国際資源クリエイティブ演習

全学生必修の海外資源フィールドワーク（鉱山・石油関連企業や商社・国際協力機関等での4週間程度の実習）の目的を理解し意義あるものにするため、事前・事後学習の場としての国際資源クリエイティブ演習を設けます。